

真宗の教えと

宗門の歩み

北米開教監督部

藤井真之

ロサンゼルスへ来て約三年半が経ちました。お寺で仕事をしていた「浄土真宗とはどんな教えなのか」という質問があります。初めてお寺を訪れてくださった参拝者の方へお寺の案内をする時はいつも説明に苦労をします。

日本の文化庁の二〇一九年の最新の報告によれば、日本において浄土真宗は東と西を合わせると寺院数が約一万八千カ寺、門徒数が約一千五百四十万人と日本の仏教教団で最大規模であるそうです（浄土真宗は東と西の他にももう八派あるので実際はもう少し多くなります）。しかし、そうした多くの真宗門徒がいる日本であっても、一般的には仏教と言えば、厳しい修

行や戒律、座禅や瞑想のイメージの方が強いと思います。仏教徒が少なく、仏教の中でも禅が特に認知されていると言われているアメリカでは、より浄土真宗に対する理解というものは難しいのだと思います。

僧侶の頭髪が自由であったり戒律がなく特に厳しい修行を行わないため、衣を着ていない限り浄土真宗の僧侶を僧侶だと見分けるのは不可能とも言えるでしょう。仏教は、お釈迦様の教えだということは多くの方がご存知だとは思いますが、浄土真宗のお寺にあるのは、たいてい阿弥陀仏の仏像や親鸞聖人、蓮如上人、七高僧などの掛け軸だけです。お釈迦様の仏像は置いていません。また、口

サンゼルス別院には「座禅や瞑想をするための部屋はありますか」と訪ねて来られる方も良くいらっしゃいますが、そういった特別な部屋もありませんので、「仏教」「座禅」や修行だと思われる方からすると、浄土真宗の教えとはどんなものなのか理解が難しいのだと思います。

この浄土真宗とはどういった仏教なのかという疑問への答えが、いつもみなさまと日曜礼拝の際に読んでおられます親鸞聖人が記された『正信偈』の中にあると思います。なぜなら、一般的に、『正信偈』を読めば

仏教の中の浄土真宗という教えの全体像が分かると言われているからです。この偈文は、大きく二つの内容からなっており、前半は「本願を信じ、念仏を称えれば仏になる」という念仏の教えをお説きになられたお釈迦様への讃嘆であり、後半はそのお釈迦様の教えを正しく受け止め、明らかにしてくださった七高僧への讃嘆となっております。七高僧とは、インドの龍樹

菩薩・天親菩薩、中国の曇鸞大師・道綽禪師・善導大師、日本の源信僧都・法然（源空）上人のことです。

仏教は、インド、中国や朝鮮半島を経て日本にも伝わりましたが、浄土真宗という教えも、お釈迦様の説かれた念仏の教えが七高僧を通じて親鸞聖人へと伝わったものなのです。そして、それが本願寺という教団の成立、多くのご門徒によつて今現在私たちに届いている浄土真宗の教えなのです。

また、「座禅や瞑想などの修行を行わない浄土真宗とはどんな仏教なのか」と言われれば、私は一つの特徴として言えるのは「聞法」ということを大切にしている教団ということだと思います。法とは仏様の教えでありますから、「聞法」とは「仏法を聞く」という意味です。しかし、浄土真宗では、ただ聞くのではなく仏法を聞くことによつて我が身を振り返り、これからの歩みを法に聞くということが「聞法」だと言われております。

ある先生は、「仏教を学ぶ」ということは「鏡を見る」ということだとおっしゃいました。「鏡を見る」という時に、「丸くて大きい鏡だ」と外見だけを見て満足するという人はいないと思います。「鏡を見る」ということは「鏡に写った自分の姿を見る」ということのはずです。客観的に教えを学ぶだけでは鏡の外見を見ているに過ぎません。仏教の教えを学ぶことで自分の姿が明らかになり、自分の生きる意味と方向が定まるような学びをしなければなりません。その先生はおっしゃいました。

私はよく仏教を人に説明するために勉強したり、単なる知識として勉強してしまいがちです。僧侶である私は特に「聞法」ということを大切にして、鏡に写った自分の姿を見るように、仏法を通じて自己を振り返り、仏法を生活する上での指針としなければならぬと思えます。特に、人は年齢や経験を重ねたりすると自分に自信が付いてきます

別院ニュース

クラフトフェア

東クラフトフェアが昨年十一月二十四日(日)に開催され、売上は青少年事業及び寺院建物維持のために寄附されました。金曜夜の準備から多くの方が集まり、色々な売り物のテーブルが用意されました。青少年グループは、南カリフォルニア地区ジュニア YBL の行事に参加する基金を集めるために、売店を開きました。ルンビニ保育園は飲み物や食べ物売りしました。クラフト好きのメンバーが、手作りの編みぐるみ、アクセサリー、ソープ、グリーティングカードやニット製品を出品されていました。皆様のおかげで素晴らしいクラフトフェアになりました。来年の基金集めのフェアも楽しみにしています。

年末大掃除

年末の大掃除は最も大切な年中行事の一つです。昨年十二月十五日(日)の朝早くからメンバーの方々にお集まりいただき、台所、ソーシャルホール、教室、

本堂、玄関ロビー、そして境内を清掃し、年末年始の行事に備えました。皆さまのご協力のおかげで美しいお寺で新年を迎えることができました。大掃除にご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。

おもちつき

別院名物の餅つきを昨年十二月二十七日(金)に開催しました。今年も多くの方にお集まりいただき、皆で楽しくお餅つきをし、美味しくいただきました。最初に本堂とお内仏に荘厳なお重ねを作り、続いて修正会の後のお汁粉用の小餅やあんこ餅を作りました。恒例の色とりどりの小餅やチョコレートとピーナツバター入りのお餅を作つて楽しみました。ルンビニ幼稚園の子どもたちも一緒にお重ねを作り、それぞれのお家に持ち帰っていただきました。餅つきにお越しいただいた皆様、特に全体の指揮をとっていただいた山城グレースさん、ご寄付をいただいた風月堂さんには心より御礼申し上げます。今年の年末も皆さまのご参加をお待ちしております。

除夜会

二〇一九年の締めくくりとして、大晦日に除夜会が勤まりました。行く年を振り返り、新年に向けての抱負を分かち合いました。その後、ソーシャルホールにて恒例の年越しそばをいただきました。会場は満席でした。そして、除夜の鐘を代わるがわる撞き、大晦日を楽しみ締めくくりました。

修正会

二〇二〇年元旦、修正会が勤まりました。出仕した僧侶が一人ずつ新年の挨拶をし、新たな年の幕開けとなりました。法要後にはソーシャルホールにてお汁粉とお屠蘇をいただき、新年の慶びを交しました。

永代経法要 総会・新年会

一月二十五日に、本年の永代経法要を厳修し、数多くのご参拝のもと、生前、別院護持に尽力されましたご門徒のご功労を偲びました。幡ピーター開教使が英語にて、今原ポール開教使が日本語にて法話を行いました。

した。法要後、第百十五回総会及び新年会を、ライトと素敵なテーブルにより華やかに飾られたソーシャルホールにて開催致しました。今年のお料理はヒロセ・アキラシェフによるお弁当と、前菜やスープ、サラダを美味しくいただきました。レモネードをはじめ、たくさんの飲み物や、ABA・メンバー・ルンビニスタッフ手作りのデザートも振舞われました。

総会・新年会は佐藤ロンドン理事長と伊東憲昭輪番の挨拶に始まり、幡開教使による別院活動報告、金本ゲイリー氏による会計報告そして池田デイヴィット氏による二〇一九年度理事選出と続きました。そして新たに糸賀ウエイン氏が理事長に選出されました。また、村田ベニー氏が副理事長、バーボット・イレイン氏と佐藤ロンドン氏が会計に選出されました。

伊東輪番、佐藤理事より寺院護持に尽力されたボランティアの方々への表彰が行われました。また、長年理事長としてご尽力いただいた佐藤氏と奥様の佐藤ベッキー氏への感謝の表彰も行われました。続いて

伊東信氏による今年の干支・ねずみにちなんだゲームが行われました。引き続きABAによるダンスが披露されました。バックグラウンドでは二〇一九年の行事のスライドショーも披露されました。また、伊東信氏には司会進行を務めていただき、ABAの方々には会全体の企画運営と昼食を取り仕切っていただきました。原田イレイン氏とジュン・シャリリン氏には八十歳以上の方々への贈り物とテーブルフラワーをご寄付いただきました。また、柏原スーザン氏、原田イレイン氏、ジュン・シャリリン氏、大田イレイン氏、佐藤ベッキー氏、にはラッフルの賞品をご寄付いただきました。永田カズヨ氏には、美しいシクラメンをいただきました。また、ルンビニの先生方やご門徒の方々には会場の準備や後片付けをお手伝いいただきました。皆様お一人一人のお力添えにより、素晴らしい総会・新年会となりました。この場をお借りして、お寺を代表し、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願致します。

報恩講奉仕団

伊東輪番より十一月の報

恩講奉仕団への参加をお声かけいただいたとき、既に十月に出張で日本へ行く予定があったこと、感謝祭を過ごせない残念さにより、参加を躊躇してしまいました。しかし思い返すとこれらの理由は、私が奉仕団で過ごした素晴らしい時間と比べると些細なことでした。ブレニオン開教係は、二〇一九年の報恩講結願と感謝祭は同じ日なので、きつと素敵な旅になることだろうと伝えてくださいました。長谷川先生は、とても手厚く私を含む他の参加者のお世話をしてくださりました。

二泊三日の奉仕団の期間中は京都の本山・真宗本願寺（東本願寺）の境内にある同朋会館に宿泊しました。また奉仕団はハワイ開教区のメンバー八名と引率の菊地開教使と合同で行われました。御影堂と阿弥陀堂は、写真では伝えられないほど大きく、お荘厳も素晴らしい。就寝時には敷・掛け布団を利用しました。朝は、六時前に穏やかな鐘の音で

起床し、法要・座談・その他の活動の開始を知らせてくれました。日本各地から奉仕団に参加している方々とは、講義や座談は別々でしたが、法要と食事の時間は共に過ごしました。毎朝の清掃では部屋を掃除機がけしたり、食事当番があったり、特に清掃奉仕の時間には通常は公開されていない御影堂門に上りました。

講義はマイケル・コンウエイ氏が担当くださいました。また、各参加者がどのようにして東本願寺とご縁をもつようになったのか、なぜ奉仕団に参加することになったのかを聞くことは、とても刺激になりました。長くメンバーの方もいれば、ここ一、二年といつた方もおられました。そしてウエストコビナ東本願寺の見義開教使のお母様が差し入れをくださいました。

法要中、僧侶がとても熱心にお勤めをしていることに対して、聞き入っていました。資格のある僧侶のみが行える特別な勤行である坂東曲（体を左右に揺らすなど動きのある勤行）は、彼らがそれを表現しているほどに人目を引くものでした。しかも正座をしながら

体を動かすので、どんなに痛いことかと思いましたが、参詣席には椅子もありましたが、十分ではありませんでした。私が正座を崩したような座り方をしていると、後で彼女が椅子を持ってきてくれたので、ことなきを得ました。補導の伊勢先生は私たちを気遣って、持ち運べる小さい椅子を見つけてきてくれました。

また、大谷暢裕開教司教とご子息の大谷裕健役との面談も特別な経験となりました。コンウエイ氏は、報恩講とは、親鸞聖人の教えに感謝する法縁である、と説明してくださりました。その他には、「金剛心」についてお話がありました。金剛心とは何かというと、ダイヤモンドのように固い信心という意味だそうです。ここでいう信心とは、私が信じる心ではなく、阿弥陀さまの救いはたらきを疑いなく受け入れた状態のことです。そして、その信心とは私を揺さぶり、さとりを求める私へと、少しずつお育てくださる力だそう

です。このことを学ぶ機会を得られたことが今回の私にとっての一番の収穫でした。

た。京都観光としては、親鸞聖人が九歳で得度を受けられた青蓮院、親鸞聖人の御廟所である大谷祖廟、親鸞聖人が師匠の法然上人とともに学ばれた安養寺、東本願寺の飛地境内地である渉成園、枯山水で有名な龍安寺を訪れ、金閣寺では金箔入りの抹茶アイスクリームを食べ、京都タワーからは京都の街を一望しました。

また京都の街は、赤や黄色、オレンジ色に見事に紅葉していました。残念な点としては、時差ボケと靴を脱ぐ時に転けたことです。他の参加者も口を揃えて、この経験を、「一生に一度」と表現していました。私も同意見です。

参加を提案くださった伊東輪番には感謝しております。また、この旅をお世話くださった長谷川先生にも感謝申し上げます。また、補導の伊勢先生、講師のマイケル先生、旅をともししてくださった参加者、そして、私たちに教えをお伝えくださっている親鸞聖人に感謝致します。

村田 ペニー



お知らせ

別院ゴルフ大会

別院恒例のゴルフトーナメントを三月二日(月)にヴィア・ヴェルデ・カントリークラブにて開催致します。参加費は一人一七〇ドルで、午前九時よりショットガン方式にて開始致します。参加費には、グリーンフィー、カート使用代、レンジボール代、賞品代、西洋式ビュッフェでの食事が含まれております。キヤロウェイ方式によってハンディを決定致します。その他、昼食には特別な賞品もご用意致しております。

大会収益は若年層の活動及び寺院建物の維持に使用されます。また、ティースポンサーも募集しております。ティースポンサーはホールあたり一二五ドル、トーナメントスポンサーは一五百ドルで、四名の参加費が含まれます。ゴールドスポンサーは五百ドル、シルバースポンサーは三百ドルとなっております。詳細につきましては別院寺務所までお問い合わせください。

春季彼岸会

今年の春季彼岸会は三月十五日(日)午前十時より厳修されます。引き続き、春季セミナーが午後一時よりソーシャルホールにて開催されます。どうぞ誘い合わせの上、ご参拝ください。ますようご案内申し上げます。

仏蓮花まつり

本年の羅府仏教連合会主催花まつりは、四月五日(日)午後一時三十分から、JACCCにてお勤めされます。本年のテーマは「Buddhism: Practice of Eating」です。詳しくは、当別院(二一三)六二六・四二〇または禅宗寺務所(二一三)六二四・八六五八までお問い合わせください。皆様のお越しをお待ちしております。

花まつり家族礼拝

本年の花まつり家族礼拝は四月十二日(日)午前十一時より勤まります。甘茶を誕生仏に注ぐ灌仏という伝統行事により、お釈迦様のご誕生をお祝い致します。どうぞご参拝ください。

行事予定

| | | | |
|----|-----------|------------|-------------|
| 二月 | 十日 日曜礼拝 | 十七日 家族礼拝 | 二十四日 日曜礼拝 |
| 三月 | 三日 三月祥月法要 | 四日 ゴルフ大会 | 十日 日曜礼拝 |
| 四月 | 十七日 家族礼拝 | 二十四日 春季彼岸会 | 三十一日 日曜礼拝 |
| 五月 | 五日 四月祥月法要 | 十二日 仏蓮花まつり | 十九日 花祭り家族礼拝 |
| | | 二十六日 日曜礼拝 | |

第13回 世界同朋大会

2020年4月20日~22日
於：真宗本廟(東本願寺)

参加募集中!!



真宗の教えと宗門の歩み (1ページからの続き)

ので、間違いを犯してもそれを認めることは難しくなつてきます。ですから「聞法」を通じて自分の間違いに気がつき、それを正すということは私たち真宗門徒にとつての心の修行なのかもしれません。

私は毎週日曜日に『正信偈』をみなさんと読む時に、口では正信偈を読んでいます。中国語は分からないので、目ではサービスブックに書かれている英語の訳を読んで念仏の教えを学んでいます。しかし、表面上の意味が分かったとしても、誰か先生の解説などがなければ『正信偈』を一人で読むというのは僧侶であっても難しいものです。

今年『真宗の教えと宗門の歩み』という本山から出版されている本の英訳版がアメリカ真宗センターから出版されます。そこには、親鸞聖人の御生涯、正信偈の内容に関して七高僧の教えなどが詳しく書かれています。本願寺が成立しからの宗門の歩みなど浄

土真宗を知る上で必要なことが全てと言っていいほど書かれています。

これは、日本では門徒向けの学習会で使用されているものであり非常に内容も平易な言葉で端的にまとめられております。北米開教区でもこれを二〇二〇年から始まるダルマシリーズプログラム第三期の教科書として使用していく予定です。自分で勉強をしたり、誰かに浄土真宗の教えを伝えるためにも役に立つ本だと思えますので、出版されましたらみなさまどうぞお買い求めいただければと思います。

同朋のお悔み



光内幸雄様
十二月三十日 御往生
行年九十四歳

坂井峯子様
一月二十七日 御往生
行年九十五歳

謹んで哀悼の意を表します。